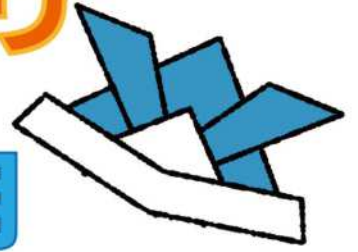




ソフィアだより

5月



いつも真正面から、真っ直ぐに相手を見る目。いつもあからさまに自分をさらけ出して、心の隅までかくすところのない目・・・それよりもなお、なんとという清さに 澄んでいることぞ。

曇りもなく、濁りもなく、たとえばこの頃の澄んだ空の清さを、そのまま人界に 落として来たかったような目。

それが、子どもの目である。

「子どもの目」

倉橋惣三

小中学生の不登校の数が、全国で44万人になる。

不登校は1つの生き方だと話し、不登校のこども家族への不登校新聞の編集長である石井志昂さんも自らが不登校の経験者です。経験をメディアでも語られていますが、フリースクールにであった時に、「あー、生きていける。生きていていいんだ」と思ったという言葉に重い現実を受け止めます。全国で44万人という不登校の子どもの数に驚くと共に、1人ひとりの子ども達が自己重要感を育めない日本の教育現場の現状がある。と思うと胸が痛みます。ソフィア時代の乳幼児期の子ども達の清らかな目を、心の痛みで曇らせることのないよう、子どもにかけることば、ふるまいに心をこめて発信していきたいです。社会のルールを伝えながら、毎日ちがう子ども達の発見、つぶやきに耳を傾けていきたいと思います。コロナウィルスが猛威をふるう中、自然はその順番どおりに、5月の空を運んできてくれました。子ども達の心が澄み渡りその毎日が清らかな目で過ごすことができるよう保育するよう努力していきます。

ソフィア東生駒こども園
園長 中畑直実

